国語科学習指導案

指導事項
場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて叙述を基に想像して読むこと。

今回の取り組み（フレームリーディング） ◎書き出しの一文に着目して、作品全体の枠組みをとらえる。

題材　ごんぎつね　教育出版

１　目標
人物の気持ちや場面が移り変わるおもしろさを読み、読書の世界を豊かにする。

２　学習計画
一次：教師の範読を聞き、大体の筋をまとめる。また、内容に興味関心をもち、初発の感想を書く。　①
二次・登場人物を確認する。（中心人物の人物像の確認）　①
・語り手「わたし」を意識して、ごんと兵十の設定を読み取る。　①
・結末場面を読む。（ここが大事）　①
・冒頭に戻って、茂平じいさんがなぜこの話を知っていたのか考える。また、ごんを撃った話を、兵十が最初に話した相手は誰かを考える。　①
三次：　副題を考え、その理由をノートに書く。　①

４　１２時間予定

読み取り	５時間
読書発表会	４時間
伝国（漢字）	１時間
書く（感想文）	１時間
テスト	１時間

＊単元は１４時間予定（２時間減）で作成。
　児童にテーマを考えさせ、選書をさせていくと、プラス１～２になります。

１時間目　　教師の範読を聞き、大体の筋をまとめる。また、内容に興味関心をもち、初発の感想を書く。

学習活動	時間	指導上の留意点	評価
１本単元のめあて「登場人物の行動や気持ちを想像しながらよみましょう」 ２　本時のめあて「ごんぎつねの大体の筋をまとめたり、感想をまとめたりする。」	５	・単元全体のめあてと、本時のめあての２つを黒板に書き、ノートに視写させる。	
３　本文の範読を聞く。	１５	・範読を聞いた後、大体の筋と、感想をまとめることを予告しておく。	
４　ごんぎつねの大体の筋を３行以内でまとめる。	５	（大体の筋の例） ＊最初はいたずらばかりするきつねのごんが、最後は兵十に気持ちを寄せるようになった。 ＊ごんのことをぬすっとぎつねめと思っていたが、自分に親切にしてくれたのがごんだとわかって、ごんに対する気持ちが変わった。	
５　イメージマップに初読の感想をまとめる。 ・ノートにまとめる。５分 ・交流２分 ・一斉３分	１５	・ごんについて、兵十について、その他について、あるいはごんと兵十の関係性についての感想が書かれると思うので、一斉の際には、意図的指名を行う。 ・机間支援をしている際に、ノートに◎、○、□などの印をつけてやり、意図的指名に生かしてもよい。	イメージマップに感想をまとめている。（ノート・交流）読む
６本時の学習の自己評価をする。	５	・めあてにもどり、自己評価をさせる。	

２時間目　登場人物を確認する。

学習活動	時間	指導上の留意点	評価
１　本時のめあて「登場人物について整理しよう」を確認する	５	・黒板にめあてを書き、ノートに視写させる。集中して試写する習慣が身に付くように、２分程度たったら、音読を開始することを予告しておく。	
２　本文の音読をする。	１５	・全文を通読させる。読むときに、歯切れ良く音読することが、内容を理解する上で基礎となることを伝える。（個人読み：時間は１５分）	

３　登場人物の人数と出てきた順をノートに書きだし確認する。	１０	・登場人物の人数　５人 ・登場人物 　ごん・兵十・弥助の家内・イワシ売り・加助 ・登場人物の定義を説明する。 　作品の中で動く・セリフがある	登場人物についてノートに書いている。（ノート・発言）読む
４　書き出しの一文について考える。	１０	Ｔ：書き出しからわかることはありますか。 Ｃ：話の始まりは３行目から Ｃ：聞いたことをみんなに話して教えてあげよう。 Ｔ：わたしとはだれか Ｃ：作者・新美南吉 Ｃ：語り手 ＊語り手で進める。 Ｔ：わたしと兵十が生きた時代は同じだったのだろうか。 ＊私が小さいときに村の茂平というおじいさんから聞いた、それをこれから語りますよ。という設定になっている。 Ｔ：茂平じいさんが私にごんぎつねの話を語ったのは、いつ頃だと思いますか。 Ｃ：ごんが生きていた時代 Ｃ：ごんが生きていた時より後	
５　本時の学習の自己評価をする。	５	・めあてにもどり、自己評価をさせる。	

３時間目　語り手「わたし」を意識して、ごんと兵十の設定を読み取る。

学習活動	時間	指導上の留意点	評価
１　本時のめあて「中心人物について整理する」	３	・黒板にめあてを書き、ノートに視写させる。集中して試写する習慣が身に付くように、２分程度たったら、音読を開始することを予告しておく。	
２　本文の音読をする。	１５	・全文を通読させる。読むときに、歯切れ良く音読することが、内容を理解する上で基礎となることを伝える。 ・音読終了後、中心人物について考えることを伝えておく。	
３　中心人物について考える。	５	・登場人物５人の中の中心人物は誰なのか考える。 ＊中心人物（物語の最初と最後で大きく変わる人、物語の中で、とても大事な役割をする人物） →　ごん・兵十	

４　ごんはどのようなきつねなのか叙述をもとに整理する	５	・ひとりぼっちの小ぎつね （小ぎつねであることが重要。子どものきつねではない。物語の中で、自分のことを「わし」「おれ」） ・しだのいっぱいしげった森の中に、あなをほって住んでいた。 ・夜でも昼でも、辺りの村へ出てきて、いたずらばかり ・いも、菜種がら、とんがらし	
５　兵十とはどのような人物なのか叙述をもとに整理する。	５	・ぼろぼろの黒い着物（貧乏） ・はちまきをした・・(細かいことはきにしない。) ・うなぎやきすを、・・・(乱暴) ・うわあ、ぬすっと・・・(こわい) ・兵十はおっかけて・・・(あきらめが早い。)	
４　全体で確認する。（一斉で確認）	１０	・上記のことについて、たくさんの児童に表現させ、話し合いをしていく。	
６本時の学習の自己評価をする。	２	・めあてにもどり、自己評価をさせる。	

４時間目　結末場面を読み、ごんはどうなったのか考える。（ここが大事の活用）

学習活動	時間	指導上の留意点	評価
１　本時のめあて 「ごんはどうなったのか考える」	５	・黒板にめあてを書き、ノートに視写させる。集中して視写する習慣が身に付くように、２分程度たったら、音読を開始することを予告しておく。	
２　本文の音読をする。	１０	・全文を通読させる。読むときに、歯切れ良く音読することが、内容を理解する上で基礎となることを伝える。 （個人読み	
３　結末場面を読み、ごんはどうなったのか考える。	１５	Ｔ：ごんはどうなったか・・・ Ｃ：死んだ Ｔ：死んだという表現は一つもないが。 どのような叙述からごんが死んだということがわかりますか。ノートに書きだしてみましょう。 Ｃ：ドンとうちました ばたりとたおれました ぐったりと目をつぶったまま 青いけむりが Ｔ：読み手はこのような表現をつなぎ合わせて、ごんが死んでしまったのではないかと感じる。	死んでしまったことを感じさせる叙述を書き出している。（ノート・発言）読む

		このように、ごんが死んでしまったことをほのめかしたような言い方、叙述を「暗示」と言います。	
４　ここが大事を確認する。	１０	・ｐ４９のここが大事を読み、情景を読むということを理解する。 ・好きな情景描写を見つけて、ノートに書きだし、好きな理由を整理する。 ・交流をする。	
６本時の学習の自己評価をする。	５	・めあてにもどり、自己評価をさせる。	

５時間目　冒頭に戻って、茂平じいさんがなぜこの話を知っていたのか考える。

学習活動	時間	指導上の留意点	評価
１　本時のめあて 「茂平じいさんがなぜこの話を知っていたのか考える。」	５	・黒板にめあてを書き、ノートに視写させる。集中して視写する習慣が身に付くように、２分程度たったら、音読を開始することを予告しておく。	
２　本文の音読をする。	１０	・全文を通読させる。読むときに、歯切れ良く音読することが、内容を理解する上で基礎となることを伝える。 （個人読み：時間は１０分）	
３　茂平じいさんがなぜこの話を知っていたのか考える。	１０	T:「ぬすっとぎつねめ」とずっと思っていた兵十が最後の場面でごんを撃ちます。最後の場面には、ごんと兵十の２人しかいません。ごんは撃たれました。残されたのは兵十。兵十がこの話を誰かにしなければ、この話は誰にも伝わりません。広まらないのです。では、なぜ、冒頭の一文にあったように、時代を越えて「茂平おじいさん」が知っていたのでしょう。 Ｃ：兵十が誰かに話したと思う。 Ｔ：誰に話したのだろう。登場人物は、ごんと兵十のほかは３人。その中の誰だと思いますか。 Ｃ：加助 Ｔ：兵十と加助、２人はどのような関係だったでしょう。 Ｃ：仲がよかった Ｔ：兵十と加助が登場する場面はどこだろう。 Ｃ：４と５の場面 Ｔ：仲が良かったことがわかる証拠を見つけよう。見つかったら、教科書に線を引こう。	兵十と加助の関係をノートにまとめてい

		・５分程度経過したら、ペア学習・グループ学習などを取り入れ、線を引いたところを見せ合う。 ・比較する（全体で確認する前に、ペア学習・グループ学習などが入ると、交流活動になる。はばプラ）	る。 （ノート・観察）読む
４　全体で確認する。(仲がよかったことがわかる叙述)	１０	・確認するとき、子どもの発言のあとに、「そこから分かることは？」と切り返すと、叙述に即した読みになります。	
５　冒頭の一文についてまとめる。	５	・ごんは村人たちの間では、いたずらぎつね、ぬすっとぎつねと思われ噂されていました。加助はきっと、ごんが兵十のためにしたことを村人に話したのではないだろうか。それから、人々に語り継がれてきているので、冒頭の、一文になっている。	
６本時の学習の自己評価をする。	５	・めあてにもどり、自己評価をさせる。	

６時間目　この物語がどのようなお話なのかを表す副題を考える。

学習活動	時間	指導上の留意点	評価
１　本時のめあて 「ごんぎつねの副題を考えよう」	３	・黒板にめあてを書き、ノートに視写させる。集中して視写する習慣が身に付くように、２分程度たったら、音読を開始することを予告しておく。	
２　本文の音読をする。	１０	・全文を通読させる。読むときに、歯切れ良く音読することが、内容を理解する上で基礎となることを伝える。 （個人読み	
３　強く心に残った場面や、好きな場面、その理由をノートにまとめ、交流する。 ノートにまとめる７ 少人数交流　　３ 一斉での交流　　５	１５	・強く心に残った場面 ・その理由 という構成でノートにまとめさせていく。 ・好きな場面 　その理由という構成でもよい。 （全体で確認する前に、ペア学習・グループ学習などが入ると、交流活動になる。はばプラ）	
４　副題をつけ交流する。 ノートにまとめる７ 少人数交流　　３	１５	・この物語がどのようなお話なのかを表す副題を考える。その際、強く心に残った場面、好きな場面が伝わるような副題にしていくことを指導助言する。 ・副題の付け方は、五七五の形式	副題をつけている。（ノート・）発言・交流）

一斉での交流　　５		〜しようよごん（よびかけ） 〜なごん・〜な物語（体言止め） ・副題を交流するときには、「副題」と「その理由」の両方を伝えさせる。	
６本時の学習の自己評価をする。	２	・めあてにもどり、自己評価をさせる。	

７時間目　本の紹介の仕方「ブックトーク」を体験する。

学習活動	時間	指導上の留意点	評価
１　本時のめあて 本の紹介の仕方「ブックトーク」を体験しよう。	５	・黒板にめあてを書き、ノートに視写させる。集中して視写する習慣が身に付くように、２分程度たったら、音読を開始することを予告しておく。	
２　ブックトークについて知り学習の見通しをもつ	５	・ブックトークとは、本の紹介の方法 ・ブックトークの目的と効果 ①　本を読むきっかけをつくることができる。 ②　今まで知らなかった新しいジャンルの本との出会いを作ることができる。 ③　手に取られにくい本に光を与えることができる。	
３　ブックトークを体験する。	１０	・ブックトークを体験する。 ・テーマ「クリスマス」 ・ｐ５２の東野さんの発表をもとに、ブックトークを行う。	ブックトークのイメージを持っている。
４　ブックトークの手順を知る。	５	・ｐ５０を見て、どのように準備をしてブックトークを行うのか見通しをもつ。	
５　テーマを決め、本を集める体験をする。	１５	・テーマを掲示し、グループごとに、どのテーマにするか考える。 ・テーマにあった本を選ぶ。	
６本時の学習の自己評価をする。	５	・めあてにもどり、自己評価をさせる。	

＊今回は教師がテーマを決め、選書しているので２時間減の計画になっています。児童にテーマを決めさせ、選書をさせると、７時間目のあと、１〜２時間は必要になります。

＊川上が選書した本を使うと、時間表の変更が必要になります。

＊参考）テーマを決める。教科書の「テーマを決める」の中の何にするか決める。

１人１冊テーマにあった本を選書する。

８時間目　ブックトークの準備をする。①

学習活動	時間	指導上の留意点	評価
１　本時のめあて	３	・黒板にめあてを書き、ノートに視写させる。集	

「本を読んでしょうかいする本の順番を決めよう。」		中して視写する習慣が身に付くように、２分程度たったら、音読を開始することを予告しておく。	
２　本文の音読をする。	５	・全文を通読させる。読むときに、歯切れ良く音読することが、内容を理解する上で基礎となることを伝える。 （個人読み）	
３　自分が担当する本を読んで、大体の話、自分が感じたことや考えたことをノートに整理する。	２０	・本の分担をする。 ・読書する。 ・ノートに次のことを書く。 ①　題名　②作者名　③あらすじ ④　感想や考えたこと。	
４　グループごとに話し合う。	１０	・ノートに整理したことを交流する。 ・紹介する本の順番を決める。 ・発表のタイトルを話し合う。	
５　本時の学習の自己評価をする。	５	・めあてにもどり、自己評価をさせる。	

８時間目　ブックトークの準備をする。②

学習活動	時間	指導上の留意点	評価
１　本時のめあて 「組み立てメモを作ろう」	３	・黒板にめあてを書き、ノートに視写させる。集中して視写する習慣が身に付くように、２分程度たったら、音読を開始することを予告しておく。	
２　本文の音読をする。	５	・全文を通読させる。読むときに、歯切れ良く音読することが、内容を理解する上で基礎となることを伝える。 （個人読み）	
３　ｐ５０の組み立てメモをもとに、何を発表するのか決める。	１０	・始め グループごとに３つの中から選ぶ。 なぜ、このテーマ・・・秋山 なぜ、これらの　・・・木村 しょうかいする本の・・東野 ・中 しょうかいの中身 ４つの中から１つ選ぶ ・終わり ４つの中から１つ選ぶ。 ・好きな場面の読み聞かせを選んだ児童は読み聞かせのページを決める。	組み立てメモをもとに、何を書くか決めている。（教科書・つぶやき）読む
４　各自、メモに従っ	１５	・教科書にある、発表の例を参考に原稿を作成す	

て原稿を作成する。		る。 ・ポイント ① 木村さん・東野さん・秋山さんのうちだれの発表の例にしたのか、明確にする。 ② 始め・中・終わりがわかるように段落をつける。 ③ 自分が決めた内容を書く。	
５　書いた原稿を発表しあう。	１０	・自分の原稿を音読する。 ・友だちの発表を聞く。 ・原稿の手直しをする。	
６本時の学習の自己評価をする。	２	・めあてにもどり、自己評価をさせる。	

９時間目　ブックトークをする。①

学習活動	時間	指導上の留意点	評価
１　本時のめあて 「ブックトークをしよう」	３	・黒板にめあてを書き、ノートに視写させる。集中して視写する習慣が身に付くように、２分程度たったら、音読を開始することを予告しておく。	
２　自分の原稿を音読する。	５	・全文を通読させる。読むときに、歯切れ良く音読することが、内容を理解する上で基礎となることを伝える。 （個人読み）	
３　読書発表会「ブックトーク」をする。	３５	ブックトークの進め方 ・事前に発表順を決めておく。 ・プログラムを作っておいてもよい。 ・本が見せられるように、発表者の前に長机があるとよい。立てて飾る。 ・発表者（例） ① 代表者がテーマを言う。 ② 原稿をもとにブックトークを行う。 ・聞き手（例） ① ノートに、「テーマ」を書く。 ② 書名をメモしていく。 ③ グループの発表が終了したら、読みたい本の書名に〇をつける。	
４　本時の学習の自己評価をする。	２	・めあてにもどり、自己評価をさせる。	